

2013年度 日本地理教育学会第63回大会プログラム

※大会には会員以外の方も参加可能です。

期日：2013年8月24日（土）・25日（日）

大会会場：佐賀大学文化教育学部

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1

JR佐賀駅からバス15分「佐大前」下車

費用：大会参加 1,500円（要旨集含む）

懇親会費 5,000円

大会実行委員会

山下宗利（佐賀大学，委員長）

藤永 豪（佐賀大学）

連絡先

yama@cc.saga-u.ac.jp

0952-28-8230（山下）

※会場等に関するお問い合わせ

共催 佐賀大学

後援 佐賀県教育委員会，佐賀市教育委員会，
福岡地理学会



大会概要

8月24日（土） 受付開始 11:30

評議員会12:00～12:50

シンポジウム（13:00～16:00）

総会（16:10～17:00）

懇親会（18:00～20:30）

※懇親会会場：グランデはがくれ 佐賀市天神2-1-36 Tel10952-25-2212

8月25日（日） 受付開始 8:30

午前 第1会場・第2会場一般発表（9:00～12:00）

午後 第1会場・第2会場一般発表（13:00～16:20）

※プログラム等に関するお問い合わせ

日本地理教育学会事務局 newgeo@u-gakugei.ac.jp Tel：042-329-7729（火・木10:00～17:00）

8月24日(土) 受付開始 11:30

●評議員会 (12:00~12:50) 全学教育機構1号館

●シンポジウム (13:00~16:00) 全学教育機構2号館1階211番教室

テーマ：地理教育としてのESD(持続発展教育)へのアプローチ

オーガナイザー：寺本 潔(玉川大学)

登壇者：

多貝利彦・行徳英敏(玄海町立有徳小)：地域エンパワーメントに視点を当てた「玄海町の将来を考える学習」

池下 誠(練馬区開進第一中)：よりよい社会の形成を目指す中学社会科の学習指導の在り方—ESDの視点を入れることを通して—

泉 貴久(専修大松戸高/筑波大・院)：ESDの視点を取り入れた高校地理授業の実践—アマゾン熱帯林開発と持続的発展を事例に—

秋本弘章(独協大学)：大学におけるESDの実践—獨協大学環境共生研究所の試み—

コメンテーター：高田準一郎(岐阜聖徳学園大学)

●総会 (16:10~17:00) 全学教育機構2号館1階211番教室

●懇親会 (18:00~20:30)

会場：グランデはがくれ

住所：佐賀市天神2-1-36

(佐賀駅から徒歩10分)

TEL：0952-25-2212

<http://www.grande-hagakure.com/main/>

会費：5,000円，立食パーティ形式



8月25日(日) 受付開始 8:30

●一般発表 第1会場 全学教育機構1号館2階125番教室

- 9:00 101 安藤哲郎(京都大) : 地理学習における「連想」の重要性
- 9:20 102 加藤佐知子(埼玉県草加市立八幡小)・澤田康德(東京学芸大) : 「あたたかさ」・「あつさ」に関する児童の気候認識—埼玉県川口市における小学校の例—
- 9:40 103 中村洋介(公文国際学園中・高) : 「侵食・運搬・堆積系」から捉える平野・海岸地形の学習—高等学校地理AのESD実践—
- 10:00 104 北崎幸之助(獨協大・非/攻玉社中・高) : 防災・減災の視点を取り入れた中学校校外学習の実践—神奈川県鎌倉市を例として—
- 10:20 105 香川貴志(京都教育大) : 防災教育について被災地で考える—三陸地域における京都教育大学の試み—
- 10:40 106 田部俊充(日本女子大) : 小大連携による環境教育活動の取り組み
- 11:00 107 志村 喬(上越教育大) : スコットランドにおける環境科型から社会科・理科型カリキュラムへの転換—イギリス諸島地理教育の比較考察 その2—
- 11:20 108 吉田 剛(宮城教育大)・沓澤 遥(宮城教育大・院) : イギリス中等地理教科書における地理的基本概念の役割
- 11:40 109 宮崎沙織(群馬大) : 米国地理ナショナル・スタンダードにおける環境教育の構成

<12:00-13:00 昼休み>

- 13:00 110 蛭田哲平(東京都都市整備局) : 都市再生政策に伴うライプツィヒの変容—老朽住宅地区に着目して—
- 13:20 111 山本隆太(早稲田大) : ドイツESD地理教育の空間コンセプト—要素・システム・知覚・判断—
- 13:40 112 阪上弘彬(広島大・院) : ドイツルールプランの形成におけるIGU-CGEとESDの影響
- 14:00 113 川田 力(岡山大) : 持続可能な開発と地域的公正
- 14:20 114 今野良祐(筑波大学附属坂戸高) : 地理AにおけるESD実践報告—単元「さぬきうどんから考える地域と世界」に焦点をあてて—
- 14:40 115 寺本 潔(玉川大) : 門前町の地域資源を活かした小中一貫「まちづくり科」の展開—香川県琴平町の場合—
- 15:00 116 深見 聡(長崎大) : ジオパークに求められる観光教育と地理教育の役割
- 15:20 117 松岡 靖(広島大学附属小) : ESDの理念に基づく小学校社会科における世界遺産学習—単元「世界遺産“宮島”の仕組み」の開発を通して—
- 15:40 118 吉田和義(創価大) : 小学校高学年における子どもの知覚環境の特性
- 16:00 119 大西宏治(富山大) : 国際地理学連合京都大会における地理教育の取り組み

8月25日(日) 受付開始 8:30

●一般発表 第2会場 全学教育機構1号館2階129番教室

- 9:00 201 田村賢哉(奈良大・院) : 教育の情報化に伴う地理等育の変化と地理空間情報の活用
- 9:20 202 西林直哉(奈良大・院) : 社会科教育におけるGoogle Earthを用いた教材の表現方法
- 9:40 203 伊藤智章(静岡県立裾野高) : iPadを利用した「デジタル地図帳」のアプリの開発と運用—一次世代地理教育教材としての普及を視野に—
- 10:00 204 國原幸一朗(筑波大・院) : フィールドワークとGIS
- 10:20 205 中村康子(東京学芸大) : 教員養成段階におけるGIS教育—地理調査技能との関係から—
- 10:40 206 卜部勝彦(日本大) : 教材用地形図としての電子地形図25000をめぐる読図論的課題
- 11:00 207 菊地達夫(北翔大学短期大) : 小学校教員養成課程における身近な地域の調べ学習の実践—各種資料の活用を行いながら—
- 11:20 208 齋藤亮次(公文国際学園中・高) : 地理教育における野外学習の意義と課題
- 11:40 209 大谷誠一(神奈川県平塚市立金旭中) : 国際地理オリンピックにおけるフィールドワーク

<12:00-13:00昼休み>

- 13:00 210 藤永 豪(佐賀大) : 干潟の環境利用と民俗知—有明海におけるカキ養殖を事例に—
- 13:20 211 石橋賢一郎(東京学芸大・院) : 佐賀県有明海東部沿岸における海苔養殖業の経営再編
- 13:40 212 五十嵐和也(都立多摩科学技術高) : 過疎山村の高齢者による地域づくりの展開—長野県飯田市下栗地区を事例に—
- 14:00 213 池 俊介(早稲田大)・宮口侗廸(早稲田大) : 過疎地域における高校存続のための地域支援の意義—隠岐島前高校の事例—
- 14:20 214 嘉村友里恵(長崎大・院) : 山村留学研究の動向と課題
- 14:40 215 深瀬浩三(鹿児島大) : 埼玉県北西部の野菜産地における流通機構—生協産直団体の活動を中心として—
- 15:00 216 小嶋俊介(城北学園城北中・高) : 埼玉県における地元産小麦利用食品のチェーン形成
- 15:20 217 李 東民(ソウル大) : 開放的な地域読みを活用する地域の見方転換
- 15:40 218 長倉 守(愛知教育大・静岡大学共同大学院/静岡県教育委員会) : 動的な地誌学習による「世界の諸地域」の授業設計に関する研究—地理学・地理教育学の成果と授業実践との架橋—
- 16:00 219 森山隆裕(県立宮崎工業高) : 高等学校地理教育における地誌学習の視点と方法—高校地理における地誌学習の課題と欧州サッカーを教材とした学習プログラムの提案—